

# 「口蹄疫」は今後どのようなことが想定されるか

## 一日も早い終息に向け対策を進める



鮫島 春男 議員

宮崎県で発生した口蹄疫は、本県にも甚大な影響を及ぼしている。現在、国道・県道も車両等の消毒が義務となっており、農林振興課をはじめ職員も大変だと思う。今、一番大事なことはウイルスの侵入を阻止する事である。今後、どのような事が想定されるか。

### 終息に向けて対策を進める

町長

大崎町では都城市で発生してから9日の発

生報告後、深夜0時に緊急の対策会議を開き、

曾於市月野に消毒ポイントを設置し、10日の夕刻から消毒作業を始めている。最悪の事態を想定すると、その影響たるや想像を絶するものがある。町内のあらゆる産業に支障をきたし経済が停滞することが容易に想像できる。現段階では一日でも早い口蹄疫の終息に向けて、対策を進める。

### 消毒液のストックはどうする

鮫島議員

消毒液を4月20日に発注した鹿屋市は確保でき、翌日発注した本町は、大分遅れた。消毒液等のストックをす

べきであると思うが。



防疫消毒作業

### 早急に消毒液をストックする

町長

発注が一日遅れたことで、注文してもすぐに届かない状況だった。消毒液・消石灰・

防護服等はストックの必要を十分感じていた。今回の消毒液等については畜産振興協議会の予算を借わせて頂き、その後、補正予算で対応したい。

### 水田のカメムシ対策は十分か

鮫島議員

昨年までのカメムシ対策は航空防除主体であったが、本年より更に自主防除も指導している。自主防除については、共同駆除をした方が良いと思うがどうか。

### 自主防除と一斉防除の2回実施

町長

本町の平成21年度産米の等級は一等米39.2%、二等米が49.4%、規格外が2.5%と等級の低下が顕著になっている。最大の原因はカメムシによる斑点米だった。

そこで、平成22年度はカメムシ対策を重点に取り組む。出穂前の自主防除と穂揃い期の一斉防除を2回実施し、水田周辺の畦などの草刈、水田環境の整備を啓発し、更に文書・広報等により推進する。

### ジャンボタニシ対策に今後、どう取り組むか

鮫島議員

現在、ジャンボタニシが異常発生している。来年度に向けて、



ジャンボタニシによる被害を受けている水田

一斉駆除に取り組む考えはないか。

### 協議会に十分働きかける

町長

まず、対策の一つはジャンボタニシの被害を受けるのは、植え付け1〜4週間の期間であり、苗の植え付けを4週間の水管理で被害を防ぐ。水深を1〜2cmに保つことでタニシの活動を抑え被害を防ぐ。二つ目の対策はジャンボタニシ専用の駆除剤「スクミノン」で一斉に駆除して貰う。ただ繁殖力が非常に旺盛であり、こういった防除協議会とか、農地・水・環境保全協議会に十分働きかけながら、何が有効かは分からないが、みんなが関心を集め、少しでも駆除できる方法を取りながら、周知して行く。